

「無縁社会」と「仏縁」

今回は、「無縁社会」と「仏縁」、つまり「仏さまから頂いているご縁」ということについてお話ししようと思います。

昨年1月、NHKスペシャルで、「無縁社会～無縁死三万二千人の衝撃」という番組が放映されました。昨年末には、同じ題名の単行本も出版されています。「無縁死」とは、本籍・住所・氏名などが分からず、遺体の引き取り手もない死亡者が出た場合に、発見場所の自治体によって火葬が行われ、通常5年間、遺体の引き取り手がない場合には、「無縁仏」として、共同墓地などに埋葬されることを言います。NHKの調査によれば、このような「無縁死」が、一年間に三万二千人あったというのです。

昨年夏には、東京都の男性の最高齢者が、ミイラとなった遺体で発見されました。これをきっかけにして、各地で次々と、所在不明の高齢者が話題になりました。現代の日本では、いろいろな事情によって、家族を結びつけている「血縁」や、住んでいる土地の「地縁」、仕事を通じて結ばれる「社縁」などが失われてきています。これが「無縁社会」と呼ばれ、注目を集めているのです。

もちろん私は、「血縁」や「地縁」など、この世で頂いている様々な「ご縁」を、できる限り大切にしていきたいと思っています。しかし、たとえ「血縁」「地縁」「社縁」など、この世の全ての「ご縁」を失うことがあるとしても、なお、私を支える「仏縁」だけは居てくださる——「南無阿弥陀仏」のお念仏として「仏さまから頂いているご縁」だけは居てくださる——そう思うと、なんだか心強く、うれしくなってくるのです。ありがたいことです。

南無阿弥陀仏